

コンピュータマニュアルの翻訳者に 求められる文体力と専門知識



●プロフィール

三笠つなお
IT 翻訳者。東京工業大学大学院修了（専攻：数学）。
SE を経て 1995 年からローカライゼーションベンダにて翻訳の技術チェック・品質管理に従事。
2001 年からフリーランス翻訳者。
2007 年、翻訳工房みかさ LLC

設立。BABEL UNIVERSITY 講師。

コンピュータ翻訳の仕事には、ソフトウェアやハードウェアのマニュアル類の翻訳、Web コンテンツの翻訳、ソフトウェアのユーザーインターフェイスの翻訳などさまざまなものがありますが、今回はその中で最も大きな割合を占めているマニュアル類の英日翻訳に焦点を合わせて、この分野の翻訳者に求められる能力・専門知識を具体的なポイントを挙げながら説明します。

コンピュータのマニュアルには、大きく分けてエンドユーザー向けマニュアル（「ユーザーズガイド」「クイックスタートガイド」など）と技術者向けマニュアル（「プログラミングガイド」「管理者ガイド」など）があります。

■ エンドユーザー向けマニュアルの翻訳

エンドユーザー向けマニュアルでは、「読みやすさ」と「分かりやすさ」が最も重要です。コンピュータにあまり詳しくない読者もすんなり理解できるように訳さなければなりません。対象のソフトウェアやハードウェアを実際に使いながら、エンドユーザーの立場に立って訳すことが大切です。以下にエンドユーザー向けマニュアルの翻訳で特に重要な点を挙げます。

- ユーザーによる操作とコンピュータ/プログラムによる処理をはっきり区別して訳す：基本的にユーザーによる操作は「～する」、コンピュータやプログラムによる処理は「～される」または「～なる」という形式で訳すようにします。その際、原文での受動態・能動態の使い分けを気にする必要はありません（英語の受動態・能動態の使い分けはこれとはまったく異なる基準に基づいています）。こうすることで、「誰が何をするとどうなるのか」を明確に読者に伝えることができます。
- 必要に応じて情報を補足・削除する：訳文では、原文に明示的に書かれていない情報も適宜補足する必要があります。たとえば原文で単に "the file" となっていて、文脈によっては「前手順で作成したファイル」などしなければ意味が通じないことがあります。また、訳文を分かりやすくするためには、不要な情報を削除して簡潔にすることも大変重要です。特に英文の主語は訳文では省略できる（省略すべき）ことがよくあります。たとえば "XYZ application enables users to do ..." という文は、普通に訳すと「XYZ アプリケーションを使うとユーザーは～することができます」となりますが、「XYZ アプリケーション」や「ユーザー」は取り除いて単に「～することができます」で十分通じることもあるのです。
- 長い文は適度に分割して訳す：英文では関係詞を使った長いセンテンスが頻出しますが、このようなセンテンスは複数の文に分けて訳すと読みやすくなります（特に非限定用法の関係詞節）。

エンドユーザー向けマニュアルを訳すためには、最低でも Windows、Office アプリケーション、Web ブラウザ、電子メールを自由に使いこなせなければなりません。また対象のソフトウェアやハードウェアの操作を短時間で習得する能力も必要です。

技 術者向け向けマニュアルの翻訳

技術者向けマニュアルでは、「正確さ」と「論理性」が重要です。原文の内容を過不足なく、正確に、論理的に読者に伝えなければなりません。場合によっては、正確さを確保するために多少回りくどい表現が必要になることもあります。以下に技術者向けマニュアルの翻訳で特に重要な点を挙げます。

- 論理関係を正確に把握して明確に訳出する：原文内の情報の論理関係を正しく把握することが大切です。そのためには英文法の知識とともに技術的内容の深い理解が必要となります。その上で曖昧さのない論理的な訳文を作成します。特に読点を的確に使用するなどして語句の修飾関係を明確にすることが重要です。
- 専門用語を適切に使用する：技術者向けの文書ではいわゆるジャーゴン (jargon) の類の専門用語も適宜使用してかまいません。たとえばプログラム内に特定のデータを直接書き込むことを "hard-coding" といいますが、訳は「ハードコードする」で十分通じます。このような専門用語を意識したりするとかえって分かりにくくなります。
- 数値・パラメータ名・URL 等は原文から正確に転記する：データの誤りは技術文書では致命的です。コピー & ペースト機能などを利用して間違いなく転記するようにします。また、翻訳後には必ずデータに間違いがないかチェックします。

技術者向けマニュアルを訳すためには、少なくとも初級システムエンジニアレベルの技術知識が必要です。PC のアーキテクチャ、ネットワーク、データベース、セキュリティ等の基礎知識は必須です。それに加え、最新の技術情報をその都度 Web や専門書から得る必要があります。

コ ンピュータ分野のその他の翻訳

冒頭に挙げたコンピュータ分野のその他の種類の翻訳についても簡単に触れておきます。

最近多くなっているのが Web ページの翻訳、中でも製品紹介などの宣伝用 Web コンテンツの翻訳です。これは従来のパンフレット類の翻訳に近いもので、マニュアル類の翻訳とはかなり違う文体で訳さなければなりません。この種の仕事ではコピーライティングに近い翻訳が求められます。

またコンピュータ分野特有のものとして、ソフトウェアのユーザーインターフェイス (メニュー、メッセージ等) の翻訳があります。特にメニュー項目や設定項目は (センテンス単位ではなく) 語句単位で翻訳しなければならないため、一般の翻訳とはかなり異なります。単に同じ意味の語句に置き換えるだけでは不十分なこともよくあります。ソフトウェアを実際に操作しながら、機能をよく理解した上で翻訳する必要があります。

翻 訳メモリツールについて

最後にマニュアル翻訳でよく使われる「翻訳メモリツール」と呼ばれるソフトウェアを簡単に紹介しておきます。このソフトウェアを使うと、コンピュータ上に翻訳データを逐次蓄積していき、類似センテンスの訳文を効率よく使い回すことができます。コンピュータ分野の翻訳、特にマニュアル翻訳では非常に広く利用されており、この分野の仕事を請けるためには必須と言っても過言ではありません。代表的なものとして、SDL Trados、SDLX、Transit などがあります。詳しくは各社の Web サイト等を参照してください。